

見直し必要な水田農業

農業特集

No. 2

やっぱり農機具は買い過ぎでした

トラクター 耕耘機 田植機 防除機 ハーベスター バインダー コンバイン 乾燥機

こんなに農機具を持っています

このグラフは町内の全農家のアンケート調査から農機具の保有状況などをまとめたものです。先ずグラフの五十七年度の実状を見て下さい。右側の標準投資額（普及所で水稻十五ヘクタールを栽培し効率的な生産をあげることできる農機具の必要額を算定したものです）とくらべますと各農区ともかなりの無駄な投資が行われています。

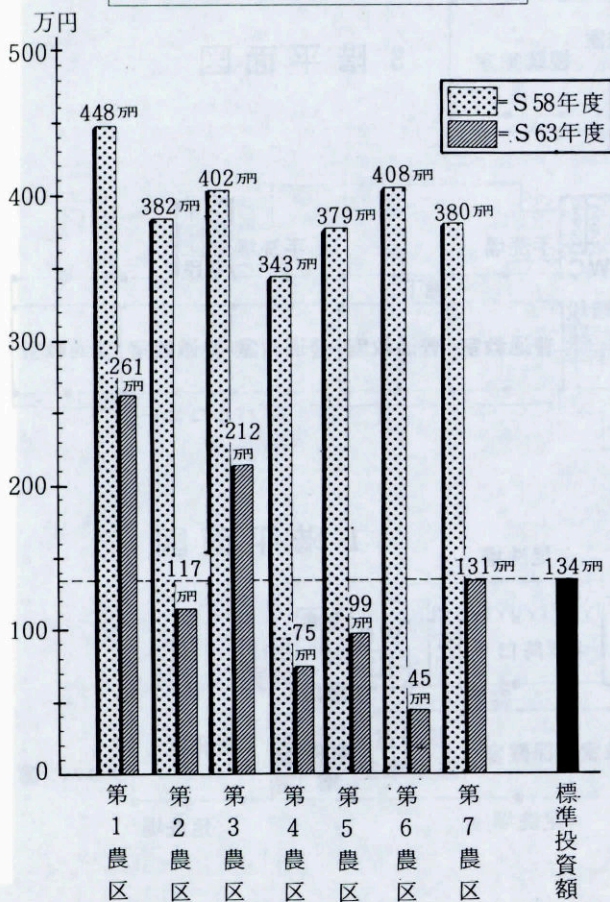
しかし将来のことも考えています

しかし農家の皆さんも、それとなく考えています。グラフの六十三年度の農機具の更新など皆さん方の予定を見て下さい。もちろん総てが一人一人の確定した考えを、まとめたものと言えないかも知れませんが余り農機具に金をかけるべきではないという表われと解釈できると思います。つまりグラフに明確に出ておられますように標準投資額から殆んど各農区が下がっています。

ブロック営農組織は

その解決策の一つです

水田機械利用投資額 (ha 当り)



昭和五十八年度には町内の水田の七十七%が基盤整備を完了します。これからの農業は、生産性をより高めねばなりません。生産性を高めるためには生産費を下げることも大切なことです。したがって生産費の中で農機具費は大きな出費となります。そして、このことは誰もが承知していることでグラフを見ても何んとかしなければならぬと思っていることです。しかし、具体的な対応となりますと、個人では、なかなか打つ手が

ありません。いま農協が中心となって、すすめております営農区の組織化は、このような場合みんなが話しあって、どのように対応していくかを考え実行する組織なのです。つまり土地を集団利用し、大型機械を機械化集団等を軸に一環作業を組織的に体系化して生産費を下げていくこと等を狙いとしたものです。グラフにあります営農区は次のとおりです。

第一営農区

滝坂、一ノ瀬、中畑、縦ノ

第七営農区

浅田、上ゲ、沢江。

第六営農区

野波瀬、向山、上東方、下東方。

第五営農区

二条窪、豊原、平野。

第四営農区

大竹、正楽寺、中村。

第三営農区

市、久原、生島、津雲、飯井。

第二営農区

ふもと、上中小野、下中小野、辻並。

木、杉山、宗頭、兔渡谷。